

1 9月の感染症発生状況（報告のあった疾病のみを記載）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和8年9月	令和7年9月
◆一類感染症 （発生なし）	0件	0件
◆二類感染症 ・結核	27件	30件
◆三類感染症 ・腸管出血性大腸菌感染症	10件	9件
◆四類感染症 ・A型肝炎 ・デング熱 ・日本紅斑熱 ・レジオネラ症	2件 1件 1件 8件	0件 0件 2件 7件
◆五類感染症（全数把握疾病） ・カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ・急性脳炎※ ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症 ・後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む） ・侵襲性肺炎球菌感染症 ・多剤耐性緑膿菌感染症 ・梅毒 ・播種性クリプトコックス症 ・破傷風 ・百日咳	1件 1件 1件 4件 2件 2件 55件 1件 1件 3件	5件 0件 2件 2件 0件 1件 45件 1件 0件 123件
◆五類感染症（定点把握疾病：第36週～第39週（8月31日～9月27日分）） ・報告数上位の疾病は①インフルエンザ(1,813件：前月比12.33倍)、②新型コロナウイルス感染症(426件：前月比0.96倍)、③感染性胃腸炎(267件：前月比0.85倍)となっています。		

※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く

2 トピックス

《インフルエンザ ～今年は要注意！！予防と早めの治療を心がけましょう～》

インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症です。主な感染経路は、感染した人の咳やくしゃみによる飛沫感染と病原体に汚染された物等を介した接触感染です。感染すると、1～3日間の潜伏期間を経て、38℃以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、関節痛、筋肉痛などの症状が出現します。いわゆる「かぜ」と比べて全身症状が強いのが特徴です。

高齢者や幼児、妊婦、持病のある方は重症化する場合があるので特に注意が必要です。該当する方はかかりつけ医と相談のうえ、インフルエンザの予防接種をご検討ください。

名古屋市内においては、2026年第35週（8月24日（月）～8月30日（日））における定点医療機関あたりのインフルエンザ患者報告数が「1.46」となり、流行入りの基準である「1」を超え流行入りとなりました。その後、第38週の報告数において「16.02」となり、現在も注意報レベルの基準「10」を超えている状況です。予防と早めの治療を心がけ、また、感染を広げないためにも、咳エチケットを守りましょう。

市内におけるインフルエンザの流行状況等の情報は、本市ウェブサイトに掲載していますので、ご参照ください。

(<https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/kenkoinfo/1009500/1009599/1009601.html>)

○予防するには

- ・人ごみ等への不要不急な外出を控え、帰宅時には手洗いをしましょう。
- ・バランスの良い食事、適度な運動、十分な睡眠をとり、体調を整えましょう。

○早めの治療

- ・かかったかなと思ったら、かかりつけの医療機関に相談しましょう。
- ・安静にして、十分な休養をとり、水分を補給しましょう。

○感染を広げないために

- ・感染を広げないためにも、『咳エチケット』を守りましょう。

～『咳エチケット』とは～

- ◎咳・くしゃみが出る時は、他の人にうつさないためにマスクを着用しましょう。
マスクを持っていない場合は、ティッシュや腕の内側などで口と鼻を押さえ、周りの人から顔をそむけましょう。
- ◎鼻汁・痰などを含んだティッシュはすぐにフタ付きのゴミ箱に捨て、手のひらで咳やくしゃみを受け止めた時はすぐに手を洗いましょう。
- ◎症状のある人はマスクを正しく着用し、周囲への感染防止に努めましょう。

《参考》

○インフルエンザの出席停止期間の基準（学校保健安全法）

- ・発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日（幼児は3日）を経過するまで。
ただし、病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めたときは、この限りではない。

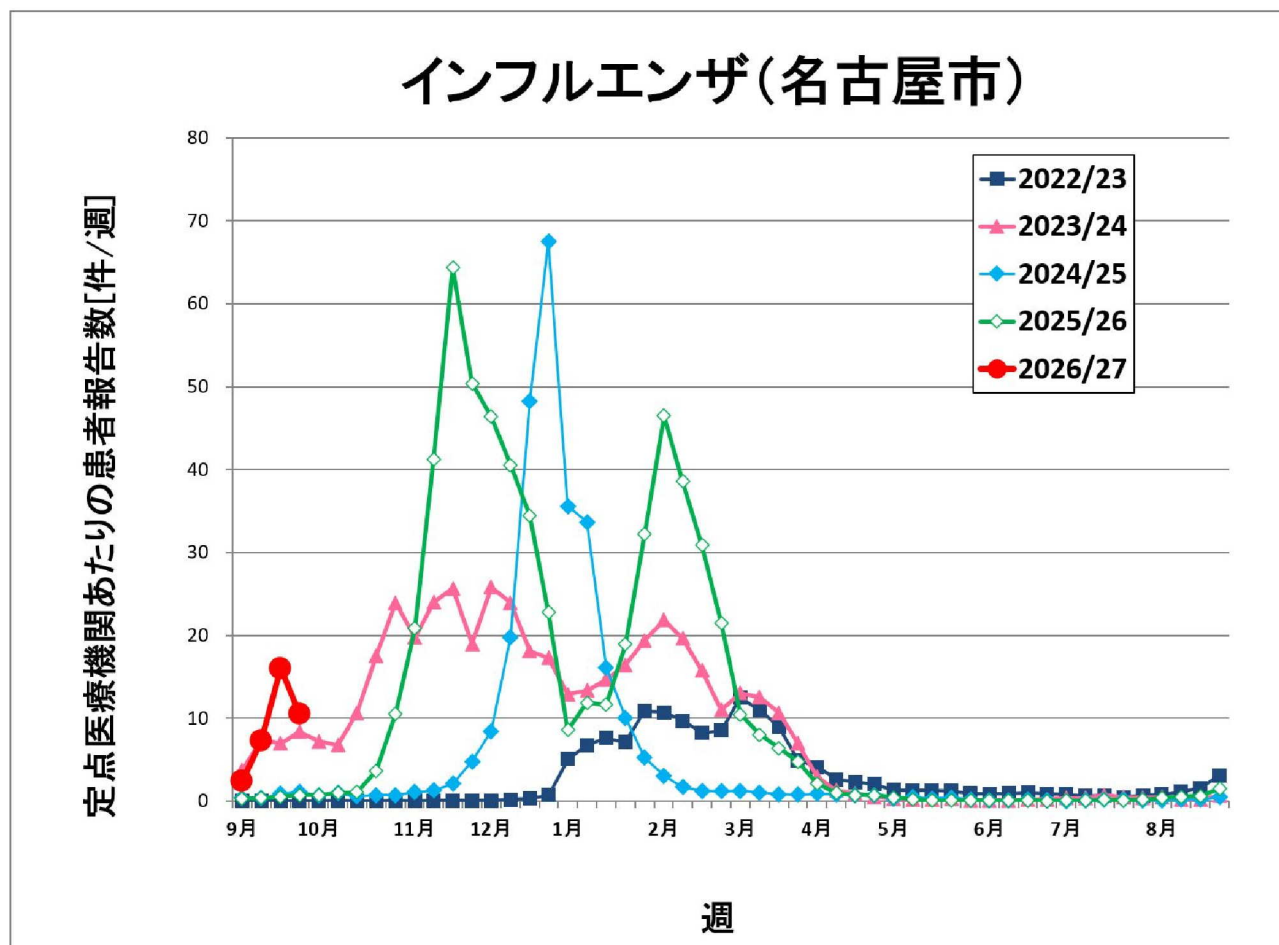
(1) 定点医療機関あたりのインフルエンザ患者報告数（過去3週分）

	名古屋市		愛知県 (本市を含む)	全国 (愛知県を 含む)
定点医療 機関数	50		163	約 3,000
2026 年第 37 週 (9/7-9/13)	7.30	去年同期 0.36	6.54	5.54
2026 年第 38 週 (9/14-9/20)	16.02	去年同期 0.50	15.12	8.48
2026 年第 39 週 (9/21-9/27)	10.54	去年同期 0.70	12.33	7.17

※ 定点医療機関あたりのインフルエンザ患者報告数が「1」を超えると「流行入り」、「10」を超えると「注意報」、「30」を超えると「警報」の基準となっています。

※ 「注意報」または「警報」の基準を超えると愛知県が「インフルエンザ注意報」または「インフルエンザ警報」を発令します。

(2) 名古屋市の定点医療機関あたりのインフルエンザ患者報告数（直近5年分）



3 病原体分離検出情報（令和 8 年 9 月分）

1. 令和 8 年 8 月 10 日発症、令和 8 年 8 月 10 日に市内医療機関を受診し、手足口病と診断された緑区在住、0 歳 10 か月、男児の検体（咽頭拭い液：8 月 10 日採取）から、手足口病を引き起こす病原体の一つとして知られているコクサッキーウイルス A 群 16 型 (CAV16) を遺伝子検査法により検出・同定しました。
2. 令和 8 年 8 月 8 日発症、市内医療機関を受診し、手足口病・突発性発疹と診断された南区在住、1 歳、女児の検体（咽頭拭い液：8 月 12 日採取）から、手足口病を引き起こす病原体の一つとして知られているコクサッキーウイルス A 群 6 型 (CAV6) 及び、通常のかぜ用疾患でよく診られ、のどの痛み、鼻づまり、くしゃみ、鼻水などを引き起こすヒトラノウイルス A 型 (HRV-A) を遺伝子検査法により検出・同定しました。
3. 令和 8 年 8 月 26 日発症、同日市内医療機関を受診し、急性脳炎と診断された居住地不明、1 歳、女児の検体（咽頭拭い液：8 月 28 日採取、血清：採取日不明）から、近年手足口病を引き起こす病原体の一つとして知られてきたコクサッキーウイルス A 群 6 型 (CAV6) であるが、極めてまれに髄膜炎や急性脳炎を起こすことが知られている。今回の検査では、咽頭ぬぐい液、血清両検体からコクサッキーウイルス A 群 6 型 (CAV6) を遺伝子検査法により検出・同定しました。
4. 令和 8 年 9 月 2 日発症、同日市内医療機関を受診し、急性脳炎と診断された居住地不明、0 歳 1 か月、女児の検体（咽頭拭い液：9 月 2 日採取、全血：9 月 2 日採取）から、新生児や乳児において腹部膨満や網状チアノーゼ、発疹、手足の紅潮さらには、髄膜炎や脳炎、敗血症を引き起こし、小児や成人においては、軽症の胃腸炎や呼吸器感染症、流行性筋痛症や筋炎などが呈することが知られているヒトパレコウイルス A3 (HeV-A3 旧ヒトパレコウイルス 3 型 (HPeV3)) を遺伝子検査法により検出・同定しました。

病原体の検出、分離・同定については、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

4 ARI サーベイランス実施状況

2026. 9. 2～2026. 9. 25 受付分（被検者 計 31 名）

	合計
AdV	2
HRV/EV	14
HPIV1	5
HPIV4	1
RSV-A	1
RSV-B	4
SARS-CoV-2	1
<i>Mycoplasma pneumoniae</i>	2
計	30

＊同一患者での重複感染例あり

AdV:アデノウイルス, HRV/EV:ヒトライノウイルスまたはエンテロウイルス, HPIV:ヒト
パラインフルエンザウイルス, RSV:RSウイルス, SARS-CoV-2:SARS コロナウイルス 2

Mycoplasma pneumoniae:肺炎マイコプラズマ

ARI サーベイランスの病原体検出・同定は、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

5 医療機関からの百日咳菌（菌株）薬剤耐性検査依頼

市内医療機関より、患者より分離した百日咳菌（菌株）の薬剤耐性調査の依頼はありませんでした。

百日咳菌株に関する薬剤耐性遺伝子検査は、名古屋市衛生研究所微生物部で実施しています。

名古屋市感染症発生動向調査情報（週報）

令和8年 第36～第39週（令和8年8月31日～令和8年9月27日）

	*小児科・急性呼吸器感染症定点報告 (50医療機関)													眼科定点報告 (11医療機関)		基幹定点報告 (3医療機関)							合 計
	インフルエンザ （鳥インフルエンザ及び 新型インフルエ ンザ等感染症を除く）	新型コロナウイルス感染症※	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足 口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性呼吸器感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 （インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 （オウム病を除く）	感染性胃腸炎 （病原体がロタウイルスであるものに限り）	インフルエンザによる入院患者	新型コロナウイルス感染症※ による入院患者	
千種	99	24	8	2	2	17	6	52	-	-	5	-	515	-	3								733
東	77	16	4	-	3	-	-	-	-	-	3	-	759										862
北	98	13	4	2	-	10	-	5	-	-	2	-	910	-	-	-	-	9	-	-	3	-	1,056
西	250	85	8	3	9	29	-	43	-	3	63	1	2,002	-	-								2,496
中村	109	30	10	-	5	37	-	-	-	-	-	-	315	-	2								508
中	17	1	-	-	-	19	-	6	-	1	-	-	176										220
昭和	82	23	-	-	-	11	-	-	-	-	-	-	91	-	-	-	-	17	-	-	3	5	232
瑞穂	43	16	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	56	-	-								119
熱田	23	5	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	122	-	-								153
中川	239	58	1	5	11	20	2	20	-	1	17	-	1,127			-	-	17	-	-	9	5	1,532
港	38	20	-	-	10	3	2	4	-	-	3	-	184										264
南	267	24	4	2	4	5	1	4	-	3	3	-	1,158	-	2								1,477
守山	101	21	-	-	3	22	6	9	-	2	1	-	916										1,081
緑	151	43	-	-	5	66	-	10	-	3	9	-	625	-	-								912
名東	193	40	5	2	12	22	-	15	-	2	11	-	1,190	-	3								1,495
天白	26	7	9	-	1	6	-	4	-	5	4	-	273	-	1								336
合計	1,813	426	57	16	65	267	17	174	0	21	121	1	10,419	0	11	0	0	43	0	0	15	10	13,476
前月	147	443	34	13	63	313	14	295	1	20	141	6	7,590	0	5	1	1	37	0	0	2	10	9,136
前月比	12.33	0.96	1.68	1.23	1.03	0.85	1.21	0.59	0.00	1.05	0.86	0.17	1.37	-	2.20	0.00	0.00	1.16	-	-	7.50	1.00	1.48
昨年同月	93	1,803	87	38	106	338	19	24	148	22	98	4	10,924	0	37	0	1	29	0	0	0	58	13,829

* 2025年4月7日（第15週）から急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスが開始されるとともに定点医療機関数が増加されました。

※ 病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。



は、報告する医療機関がないことを表す。

名古屋市感染症発生動向調査情報（月報）令和8年9月

	性感染症定点報告 (15医療機関)				基幹定点報告 (3医療機関)		合 計
	性感 染器 症 クラ ミジ ア	ウ性 イ器 ルヘル ス感 染症	尖 圭 コン ジ ロー マ	淋 菌 感 染 症	感 染 色 チ ブ シ ド リ ウ 球 耐 菌 性	肺 ペ ニ シ 菌 感 染 耐 症 性	
千種	4	0	0	0			4
東							
北	15	6	6	7	3	0	37
西	1	1	0	0			2
中村	2	0	1	2			5
中	34	38	9	18			99
昭和	5	3	0	0	3	0	11
瑞穂	0	0	0	0			0
熱田							
中川	5	6	4	6	3	0	24
港							
南	0	0	0	0			0
守山	2	3	1	0			6
緑	6	0	0	3			9
名東	1	4	0	0			5
天白	4	2	0	2			8
合計	79	63	21	38	9	0	210
前月	75	50	28	31	5	0	189
前月比	1.05	1.26	0.75	1.23	1.80	-	1.11
昨年同月	110	88	54	41	9	0	302

注  は、報告する医療機関がないことを表す。

*薬剤耐性緑膿菌の感染症基幹定点報告は、4月6日まで。
4月7日からは全数報告の対象疾病に変更されました。

9月分患者報告数	
週報分	13,476
月報分	210
合 計	13,686

令和8年 9 月の一～三類感染症発生状況

(診断日で集計)

	疾 病 名	令和8年 9 月	令和8年計	令和7年計	令和6年計
		患 者 数	患 者 数	患 者 数	患 者 数
一類感染症	エボラ出血熱	－	－	－	－
	クリミア・コンゴ出血熱	－	－	－	－
	痘そう	－	－	－	－
	南米出血熱	－	－	－	－
	ペスト	－	－	－	－
	マールブルグ病	－	－	－	－
	ラッサ熱	－	－	－	－
二類感染症	急性灰白髄炎	－	－	－	－
	結核	次ページ参照			
	ジフテリア	－	－	－	－
	重症急性呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属SA RSコロナウイルスであるものに限る。)	－	－	－	－
	中東呼吸器症候群 (病原体がベータコロナウイルス属ME RSコロナウイルスであるものに限る。)	－	－	－	－
	鳥インフルエンザ (H5N1)	－	－	－	－
	鳥インフルエンザ (H7N9)	－	－	－	－
三類感染症	コレラ	－	－	－	－
	細菌性赤痢	－	1	－	－
	腸管出血性大腸菌感染症	10 (1)	70 (14)	73 (17)	52 (15)
	腸チフス	－	2	－	－
	パラチフス	－	－	－	1
	合 計	10 (1)	73 (14)	73 (17)	53 (15)

注1 一～三類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 ()内は無症状病原体保有者の再掲。以下同じ。

腸管出血性大腸菌感染症の内訳

菌 型	令和8年 9 月	令和8年計	令和7年計	令和6年計
	患 者 数	患 者 数	患 者 数	患 者 数
O157	9 (1)	47 (7)	50 (5)	31 (6)
O26	－	4 (1)	3	5 (3)
O103	－	8 (1)	5 (4)	5 (1)
O111	－	4 (1)	2 (1)	2
O165	－	－	－	1
その他	1	5 (3)	3 (1)	2 (1)
型 不 明	－	2 (1)	10 (6)	6 (4)
合 計	10 (1)	70 (14)	73 (17)	52 (15)

注 過去3年に報告のあった菌型のみを記載。

結核 新登録患者発生状況（月報）

9月

保健セン ター名	令和8年9月（※）			令和8年計（※）			令和7年計			令和6年計		
	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者	活動性結核		(別掲) 無症状病原体 保有者
	総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数		総数	うち喀痰塗抹 検査陽性者数	
千種	0	0	0	16	6	6	17	6	5	19	7	2
東	0	0	0	8	2	2	10	3	4	9	5	2
北	3	0	1	17	4	7	14	8	2	21	9	6
西	0	0	0	15	4	7	13	5	2	9	3	10
中村	1	0	1	22	3	14	19	5	13	22	2	7
中	1	0	1	15	3	11	18	8	17	17	7	6
昭和	1	0	0	5	1	8	11	3	7	18	5	2
瑞穂	1	1	0	9	2	4	9	2	0	8	2	2
熱田	1	1	1	7	2	7	6	1	4	10	2	3
中川	1	1	1	22	6	15	35	7	16	27	13	19
港	2	0	0	27	5	6	18	4	8	20	5	7
南	0	0	2	20	7	4	20	9	3	16	5	9
守山	0	0	1	19	7	5	18	1	2	26	11	5
緑	2	2	2	26	11	8	27	4	9	18	5	9
名東	1	0	0	8	3	7	12	6	4	10	4	4
天白	2	1	1	12	3	8	5	1	5	13	5	5
全市	16	6	11	248	69	119	252	73	101	263	90	98

四類感染症（44疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和8年9月		令和8年計	令和7年計	令和6年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
E型肝炎	－		2	5	4
A型肝炎	2		5	3	1
エムボックス	－		－	－	1
ジカウイルス感染症	－		－	－	3
チクングニア熱	－		－	1	1
つつが虫病	－		－	－	1
デング熱	1		7	－	4
日本紅斑熱	1		1	5	3
マラリア	－		3	2	1
レジオネラ症	8		39	58	48
レプトスピラ症	－		－	1	－
合 計	12		57	75	67

注1 四類感染症を診断した場合は直ちに届出が必要。

注2 44疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

五類感染症全数把握（25疾病）

（診断日で集計）

疾 病 名	令和8年9月		令和8年計	令和7年計	令和6年計
	患 者 数	備 考	患 者 数	患 者 数	患 者 数
アメーバ赤痢	－		11	8	20
ウイルス性肝炎 （E型肝炎及びA型肝炎を除く。）	－	－	－	B型： 3	－
		－	－	－	－
		－	その他： 1	－	その他： 1
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1		16	36	65
急性弛緩性麻痺（急性灰白髄炎を除く。）	－		－	－	1
急性脳炎※	1		5	5	15
クロイツフェルト・ヤコブ病	－		2	3	－
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1		24	29	46
後天性免疫不全症候群	4	無症候性キャリア： 3	無症候性キャリア： 27	無症候性キャリア： 27	無症候性キャリア： 39
		AIDS： 1	AIDS： 8	AIDS： 8	AIDS： 17
		－	－	その他： 2	その他： 1
ジアルジア症	－		1	－	1
侵襲性インフルエンザ菌感染症	－		8	27	16
侵襲性髄膜炎菌感染症	－		1	3	－
侵襲性肺炎球菌感染症	2		50	83	82
水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）	－		9	17	9
多剤耐性緑膿菌感染症	2		8		
梅毒	55	早期顕症梅毒： 41	早期顕症梅毒： 328	早期顕症梅毒： 379	早期顕症梅毒： 315
		－	晩期顕症梅毒： 7	晩期顕症梅毒： 6	晩期顕症梅毒： 9
		先天梅毒： 1	先天梅毒： 2	－	－
		無症候梅毒： 13	無症候梅毒： 99	無症候梅毒： 165	無症候梅毒： 143
播種性クリプトコックス症	1		4	3	1
破傷風	1		3	2	－
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	－		－	－	1
百日咳	3		70	962	35
麻しん	－		5	6	2
薬剤耐性アシネトバクター感染症	－		－	1	－
合 計	71		689	1,775	819

※ ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

注1 五類感染症全数把握（侵襲性髄膜炎菌感染症、麻しん及び風しんを除く）を診断した場合は7日以内に届出が必要。

注2 25疾病のうち、過去3年に報告のあった疾病のみを記載。

感染症の類型及び定義（感染症法）

類型	定義
一類感染症 (7 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症
二類感染症 (7 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症
三類感染症 (5 疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起し得る感染症
四類感染症 (44 疾病)	人から人への感染はほとんどないが、動物、飲食物等の物件を介して感染するため、動物や物件の消毒、廃棄などの措置が必要となる感染症
五類感染症 (全数：25 疾病) (定点：26 疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症
新型インフルエンザ等感染症 (4 疾病)	【新型インフルエンザ／新型コロナウイルス感染症】 新たに人から人に伝染する能力を有することとなったウイルスを病原体とするインフルエンザ／コロナウイルス感染症であって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの 【再興型インフルエンザ／再興型コロナウイルス感染症】 かつて世界的規模で流行したインフルエンザ／コロナウイルス感染症であってその後流行することなく長時間が経過しているものが再興したものであって、全国的かつ急速なまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあると認められるもの
指定感染症	既知の感染症の中で上記一～三類及び新型インフルエンザ等感染症に分類されない感染症において一～三類に準じた対応の必要が生じた感染症（政令で指定）
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既知の感染症と症状等が明らかに異なり、その伝染力及び罹患した場合の重篤度から判断した危険性が極めて高い感染症

(令和8年9月30日時点)